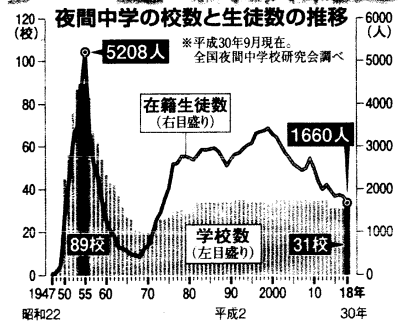


時代とともに変化する役割

増える外国籍 全国で1660人学ぶ



夜間中学は、時代の状況を映し出すことから「社会の鏡」や「社会の縮図」ともいわれています。

その歴史は戦後の混乱期にまでさかのぼり、経済的理由で昼間に働かざるを得なかった子供たちのために設けられたのが始まりです。夜間中学の教員らでつくる全国夜間中学校研究会によると、ピーク時の1950年代半ばには全国89校に5208人の生徒が在籍しましたが、経済成長や就学援助制度の整備などで当

初の役割を果たしたこともあり急減。66(昭和41)年には当時の行政管理庁が夜間中学の早期廃止勧告を出しました。60年代後半には学校数20校、生徒数416人にまで減ったものの、需要は途絶えず、平成30年度は31校で1660人が在籍しました。

生徒層も移り変わっています。開設当初は不就学や長期欠席の生徒が主でしたが、70年代に入ると差別や貧困などで学校に通えなかった在日韓

国・朝鮮人が増加し、日中国交正常化に伴い中国からの帰国者(引揚者)も多数入学しました。

90年代になると、国際結婚や仕事などで来日した人やその家族の新渡日外国人(ニヨリカマイ)が増え、現在では約8割を外国籍の生徒が占めています。

また、近年は不登校などで十分な教育を受けないまま卒業した形式卒業生が徐々に増加。夜間中学は社会の変化に対応しながら、年齢も国籍も背景も多様な生徒たちを受け入れています。

夜間中学の設置状況(令和元年) 9都府県33校 ※九数字は校数

都府県	設置校
東京都④	足立区立第四中学校夜間学級、荒川区立第九中学校夜間学級、江戸川区立小松川第二中学校夜間学級、大田区立桜谷中学校夜間学級、葛飾区立双葉中学校夜間学級、墨田区立文花中学校夜間学級、世田谷区立三宿中学校夜間学級、八王子市立第五中学校夜間学級
神奈川県②	横浜市立蒔田中学校夜間学級、川崎市立西中原中学校夜間学級
千葉県②	市川市立大洲中学校夜間学級、松戸市立第一中学校みらい分校
埼玉県①	川口市立芝西中学校陽春分校
京都府①	京都市立洛友中学校夜間部
大阪府①	大阪市立天王寺中学校夜間学級、大阪市立天満中学校夜間学級、大阪市立東生野中学校夜間学級、大阪市立文の里中学校夜間学級、堺市立藤馬場中学校夜間学級、東大阪市立豊成部中学校夜間学級、豊中市立第四中学校夜間学級、八尾市立八尾中学校夜間学級
兵庫県③	守口市立さつき学園夜間学級、岸和田市立岸城中学校夜間学級
兵庫県③	神戸市立丸山中学校西野分校、神戸市立兵庫中学校北分校、尼崎市立成良中学校琴城分校
奈良県③	奈良市立春日中学校夜間学級、天理市立北中学校夜間学級、橿原市立欽傍中学校二部
広島県②	広島市立二葉中学校夜間学級、広島市立観音中学校夜間学級

(裏面もあります)